



定年になってから少し時間に余裕ができたため、最近はいくサブスクで音楽を聴いています。今まで知らなかった若いミュージシャンの音楽に出会うことはとても楽しく、新鮮です。しかし一方で、ちよっと不思議というか疑問に思うこともあります。

おかしなルールを押し付ける政治や、忖度(そんたく)ばかりの世の中を真っ向から批判する歌がもつとあってもいいんじゃないの? と。全般的に歌詞世界に出てくる主人公がいい子すぎて、かわいすぎるのです。

もしかすると、社会に抗(あらが)う歌を作っても「炎上するからダメ」とか「売れないよ」なんて制作側から止められてしまつのかもかもしれません。そんなことを言う大人がいたらぜひ、頭脳警察の音楽を聴いてほしいと思います。

313 頭脳警察ボーカル PANTA



頭脳警察は1972年にレコードデビュー。ファーストアルバムはあまりにも政治的なメッセージが強い歌詞だったことから発売禁止となり、かえって話題を呼びました。学生運動のおわりに誕生し、日本のロック黎明(れいめい)期を支えたといつてもいいのがこのバンド。そのボーカル、PANTAさんが、7月7日に都内

長尾和宏(ながお・かずひろ) 医学博士。公益財団法人日本尊厳死協会副理事長としてリビング・ウィルの啓発を行う。映画『痛くない死に方』『けったいな町医者』をはじめ出版や配信などさまざまなメディアで長年の町医者経験を活かした医療情報を発信する傍ら、ときどき音楽ライブも。

「ROCK魂」貫いた生きざま

その後、がんであることを伏せながら治療を続け、ライブに復帰するために頑張っていました。その裏で、なんとか頭脳警察ファンの夢を叶えようと頑張ったのが、このタカマガさん。《タカマガ・ロック》と銘打って、シーナ&ザ・ロケッツとの対バンを企画。2021年11月に開催予定でしたが体調不良により延期。2023年

の病院で亡くなりました。享年73。死因は肺がんによる呼吸不全と心不全との発表です。公式サイトによれば、PANTAさんは2021年9月に体調を崩して精密検査を受け、肺がんと診断されました。

「みんなに囲まれて歌えて最高だった。こうして普通でいられることが幸せ。楽屋ですつとミックシーと一緒にいて、昔話できたのも楽しかった」と笑顔を見せたといいます。頭脳警察の公式サイトには、こんな言葉がありました。

《この数年、闘病の日々でした。闘病の中でもROCK魂を貫き、最後の時まで現役の「ROCK屋」としての人生を全ういたしました》。いつまでも健康でいられるわけではない人生の終盤戦。何があれば幸せなんだろう? 音楽と、情熱と、友達かな? PANTAさんの生きざまを見て、そう強く感じました。

初めに再度開催を決めましたが、鮎川誠さんが今年1月に膝臓(すいぞう)がんで死去。2月1日にはPANTAさんが緊急搬送され、叶わぬものとなりました。しかしタカマガはあきらめなかった。6月14日に見事PANTAさんは復帰され、50年来の友人であるミックシー吉野さんとともに熱唱。座ったままでしたが、以前と変わらぬ歌声だったといえます。